

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速 道路を直結する新たなインター チェンジ整備事業

環境影響評価方法書の概要

令和7年10月



横浜市

本日の説明内容

1. 都市計画対象事業の概要
2. 配慮書からの変更点
3. 配慮書に対する環境情報提供書の概要
及び都市計画決定権者の見解
4. 配慮市長意見の内容及び都市計画
決定権者の見解
5. 環境影響要因の抽出及び環境影響評価
項目の選定
6. 調査、予測及び評価の手法
7. 方法書対象地域

1 都市計画対象事業の概要

3

都市計画対象事業の概要

方法書p.2-1～2-3

都市計画決定権者の名称並びに当該第1分類事業を実施しようとする者の氏名及び住所

【都市計画決定権者】 横浜市

【第1分類事業を実施しようとする者】

名称 横浜市

代表者の氏名 横浜市長 山中 竹春

主たる事務所の所在地

横浜市中区本町6丁目50番地の10

都市計画対象事業の名称

旧上瀬谷通信施設地区と東名高速道路を直結する新たなインターチェンジ整備事業

都市計画対象事業の種類、規模

道路の建設（自動車専用道路の新設）

（第1分類事業）

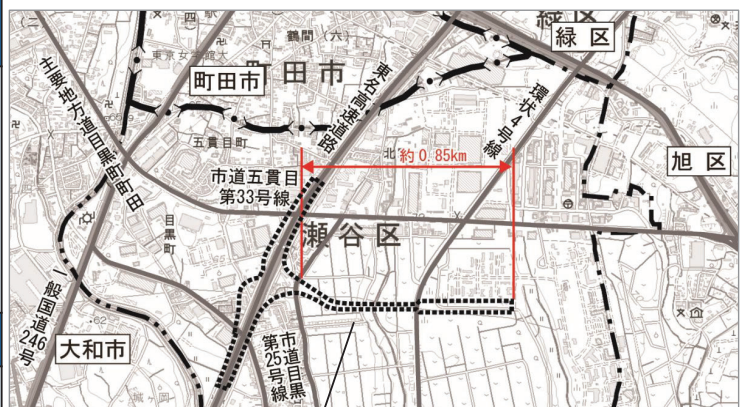
延長：約0.85km（ランプ区間含め約3.7km）

構造形式：地表式、地下式

車線数：片側1～2車線

対象事業実施区域

横浜市瀬谷区上瀬谷町、五貫目町、瀬谷町
目黒町の各一部



注：方法書で示す土地区画整理事業実施区域内の地区区分は6頁で説明

対象事業実施区域

起点：横浜市瀬谷区瀬谷町

終点：横浜市瀬谷区瀬谷町

<凡例>

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界

4

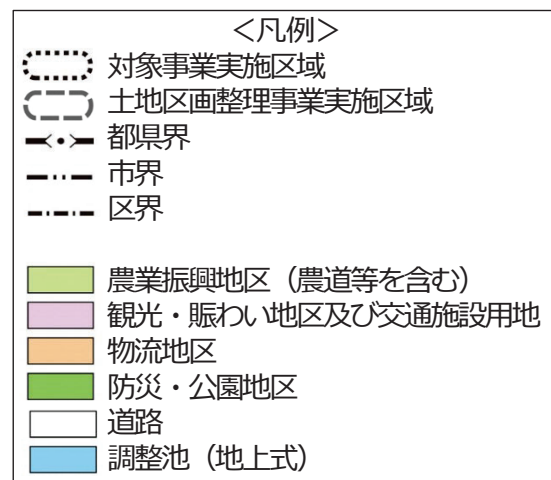
■目的

上瀬谷地区内の「防災・公園地区」で整備を予定している広域防災拠点の機能を最大限に発揮するとともに、日常の交通利便性の向上、物流機能の強化など市内経済の活性化を目指す。

■必要性

- ・ 救急・救命活動や緊急物資輸送の大動脈となる東名高速道路から直接アクセスできる新たなインターチェンジを整備し、本市全体の防災力の強化
- ・ 高速道路へのアクセス時間が短縮し、広域アクセス性が向上
- ・ 自動車交通が分散し、周辺交通環境の改善
- ・ 新たな活性化拠点の形成を促進し、市内経済の活性化

対象事業の内容 土地利用構成

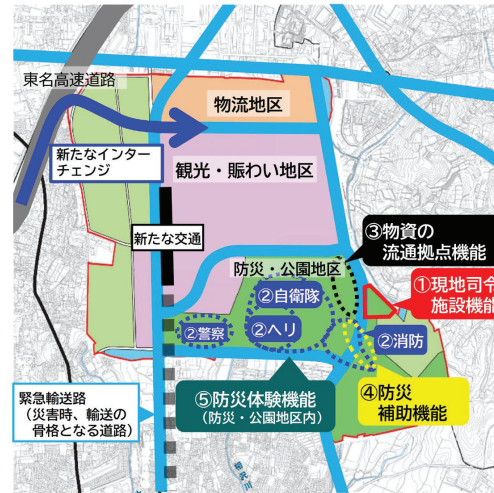


■横浜市地震防災戦略における本事業の位置づけ

横浜市では、令和6年能登半島地震の被災地支援にあたった本市職員の声や、防災・減災に関する市民アンケートなどを踏まえ、市の地震防災対策を強化するため、「横浜市地震防災戦略」を刷新し、令和7年3月に新たな戦略を策定しました。

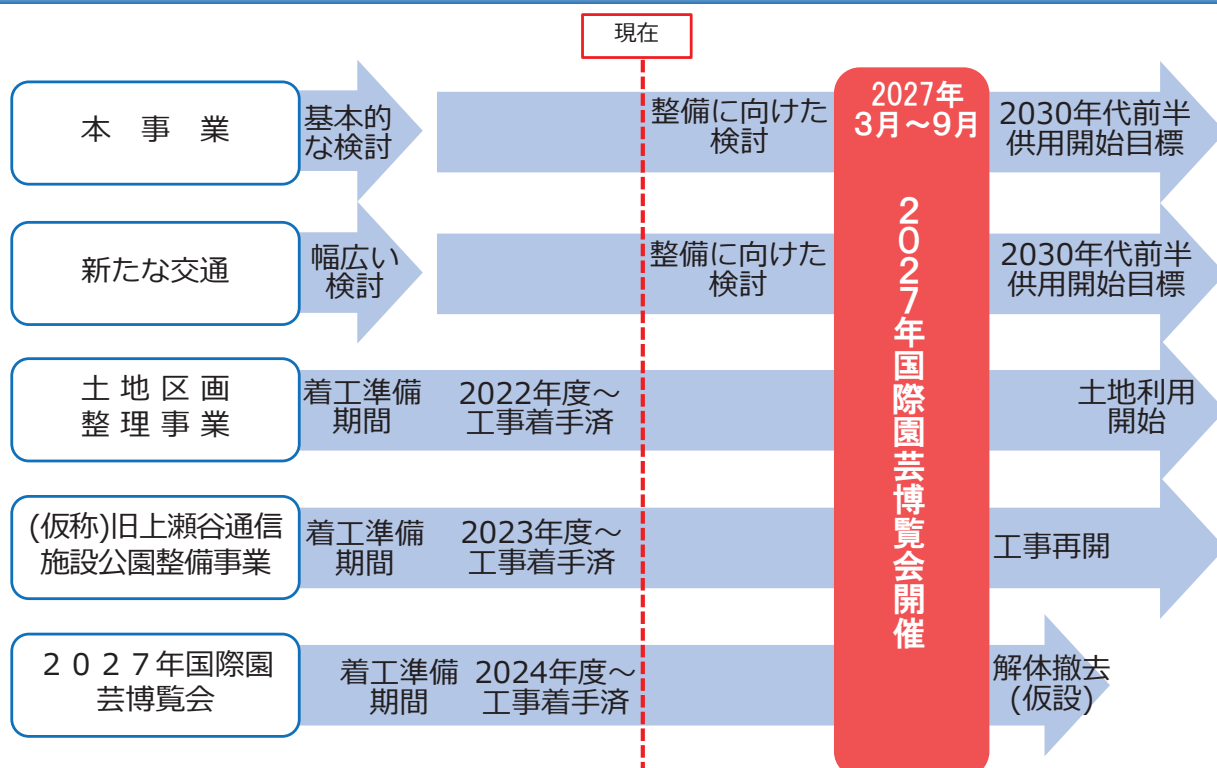
戦略の4つの柱の一つである「大規模災害時の拠点等整備」において、施策1「広域防災拠点（旧上瀬谷通信施設地区）の整備」があります。

その施策の重点取組として、本事業が位置付けられています。



旧上瀬谷通信施設地区 ゾーニング図 7

今後のスケジュール



注1：関連事業の今後のスケジュールは、各事業の環境影響評価関連図書をもとに整理したものです。

注2：「新たな交通」の事業は、横浜市環境影響評価条例の対象外の事業です。

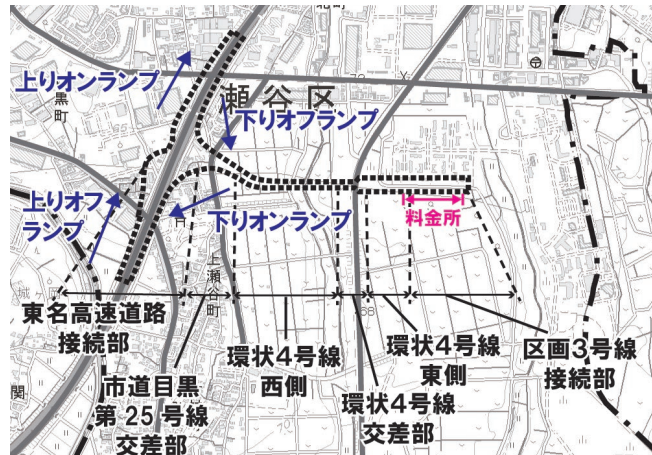
構造形式の選定

配慮書段階の3案（案①～③）、及び案④ 方法書p.2-10～2-16

本事業では、配慮書において、区間別に構造形式の複数案を設定しました。

配慮書段階では、案①～③の3案でしたが、
方法書における構造形式の選定では、配慮書段階における
審査会等でのご意見を踏まえて、案④を新たに設定し、
4案から選定しました。

案④は、自然環境や騒音への配慮として、市道目黒第25号線～環状4号線（主に環状4号線西側）をトンネル構造としました。



9

構造形式の選定

配慮書段階の3案（案①～③）、及び案④ 方法書p.2-10～2-16

構造形式案						
区間	東名高速道路 接続部	市道目黒 第25号線 交差点	環状4号線 西側	環状 4号線 交差点	環状 4号線 東側	区画3号線 接続部
案①	東名高速道路 市道目黒第25号線 環状4号線 区画3号線	下りオン / オフランプ 上りオン / オフランプ	大門川 切り回し後			
案②	東名高速道路 市道目黒第25号線 環状4号線 区画3号線	下りオン / オフランプ 上りオン / オフランプ	大門川 切り回し後			
案③	東名高速道路 市道目黒第25号線 環状4号線 区画3号線	下りオン / オフランプ 上りオン / オフランプ	大門川 切り回し後			
案④	東名高速道路 市道目黒第25号線 環状4号線 区画3号線	上りオフ 下り 上りオン / オフランプ 下りオン / オフランプ	大門川 切り回し後			

■ 高架構造 ■ 掘削構造 ■ トンネル構造 ■ 平面構造 ■ 交差又は接続する道路

追加

10

比較表（順位付け：数字の小さいものを優位）

評価項目	構造形式			
	案①	案②	案③	案④
社会面	4 事業用地の有効活用は困難	3 事業用地の有効活用は案①より可能	2 事業用地の有効活用が可能	2 事業用地の有効活用が可能
経済面	2 優位	1 最も優位	4 最も劣位	3 案③より優位
環境面	3 3 影響が比較的大きい	3 1 影響が比較的大きい	2 6 影響が比較的小さいが、廃棄物発生量と建設発生土量が最大	2 7 影響が比較的小さい
総合評価	-(3 9)	-(3 5)	-(3 2)	○(3 2)

※社会面は「事業用地、まちづくり」、経済面は「概算費用」、環境面は「廃棄物発生量、建設発生土量、工事中の影響における各項目、存在・供用時の影響における各項目」の合計

「社会面」「経済面」「環境面」において比較的優位となる案④を採用

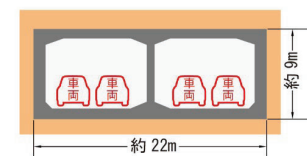
11

都市計画対象事業の内容

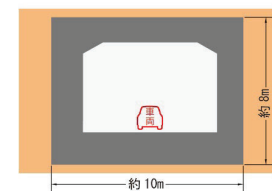
方法書p.2-19～2-23



概略断面図



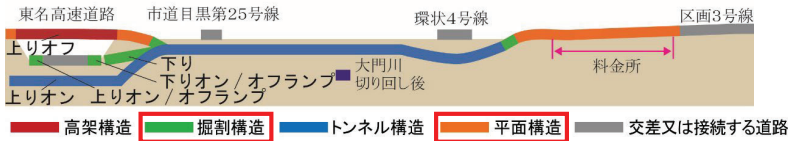
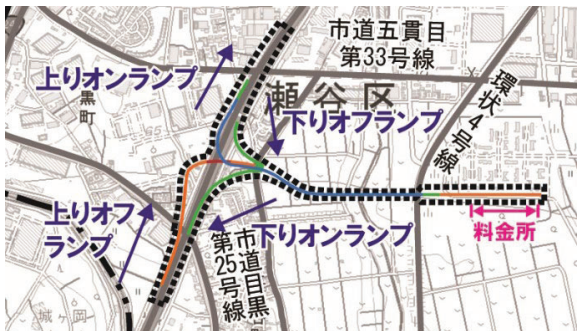
トンネル構造



トンネル構造
(上りオンランプ)

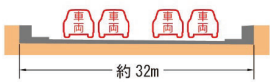
構造形式	延長	工法	備考
トンネル構造	約1.1km	開削工法	—
		パイプルーフ工法	東名高速道路交差部
平面構造	約2.0km	土工・擁壁工	延長は各ランプ合計を含む
高架構造	約0.1km	送り出し架設工法	東名高速道路交差部
掘割構造	約0.5km	擁壁構造・開削工法	—

12

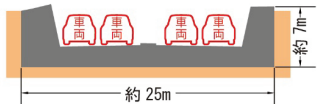


構造形式	延長	工法	備考
トンネル構造	約1.1km	開削工法	—
		パイプルーフ工法	東名高速道路交差部
平面構造	約2.0km	土工・擁壁工	延長は各ランプ合計を含む
高架構造	約0.1km	送り出し架設工法	東名高速道路交差部
掘割構造	約0.5km	擁壁構造・開削工法	—

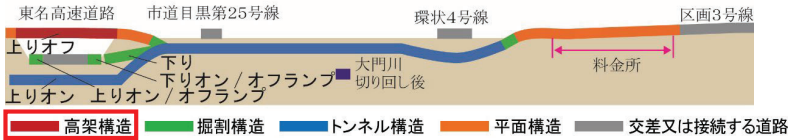
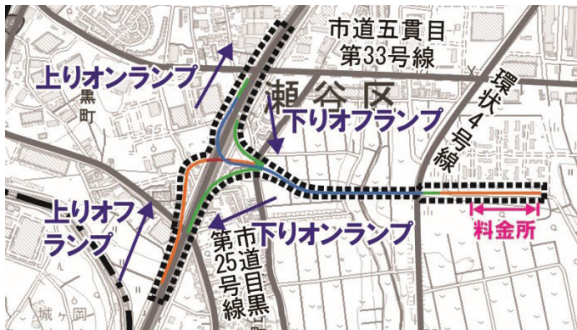
概略断面図



平面構造

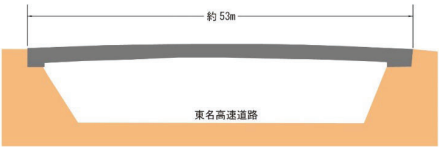


掘割構造



構造形式	延長	工法	備考
トンネル構造	約1.1km	開削工法	—
		パイプルーフ工法	東名高速道路交差部
平面構造	約2.0km	土工・擁壁工	延長は各ランプ合計を含む
高架構造	約0.1km	送り出し架設工法	東名高速道路交差部
掘割構造	約0.5km	擁壁構造・開削工法	—

概略側面図



高架構造
(上りオフランプ)

概略断面図

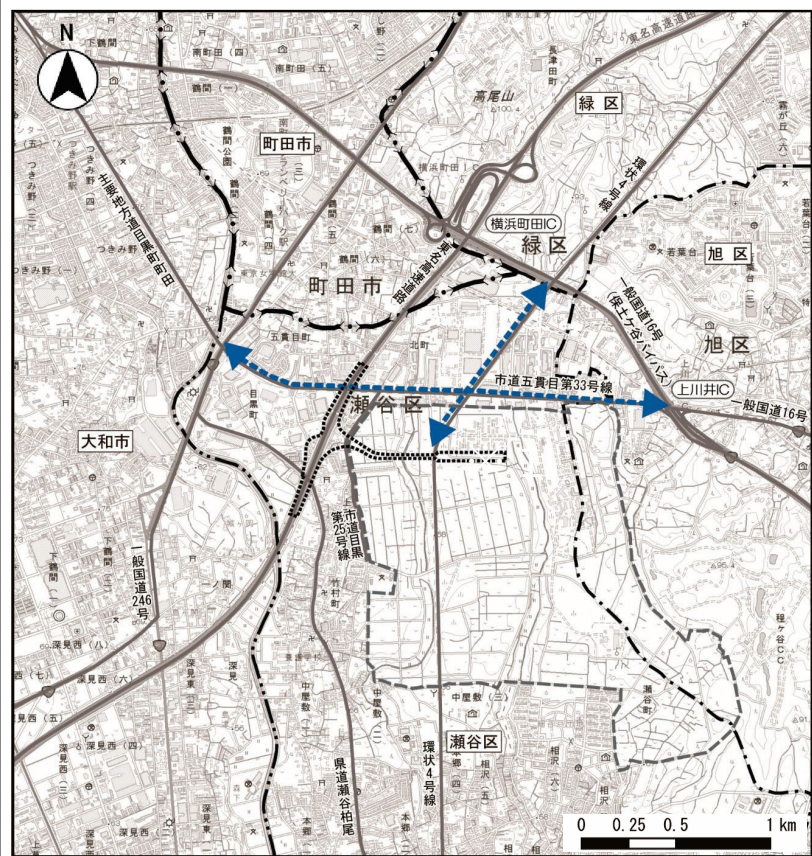


高架構造
(上りオフランプ)

工程表（予定）

工事区間	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目
準備工							
トンネル構造							
高架構造							
平面構造							
掘割構造							
付帯工							

工事用車両走行ルート等



■工事用車両走行ルート
 環状4号線、市道五貫目第33号線を主な走行ルート

■施工ヤード
 対象事業実施区域内

- 凡例
- 対象事業実施区域
 - 土地区画整理事業実施区域
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
 - >--> 工事用車両の走行ルート

2 配慮書からの変更点

17

配慮書からの変更点

方法書p.1-1

都市計画対象事業の計画内容

変更点	概要
都市計画対象事業の内容、規模	都市計画の起終点位置の整理及び事業計画の進捗に伴い、延長を更新
対象事業実施区域	事業計画の進捗に伴い、示し方を更新
都市計画対象事業の目的	事業計画の進捗に伴い、目的を更新
対象事業実施区域 平面図、縦断図	対象事業実施区域の平面図、縦断図を記載
料金所の概要	事業計画の進捗に伴い、料金所の概要を記載

18

都市計画対象事業の計画内容

変更点	概要
地球温暖化対策	新たに項を起こし、現時点での方針等を記載
生物多様性の保全	
緑の保全と創造	
計画を立案した経緯	事業計画の進捗に伴い、旧上瀬谷通信施設の経緯等を更新
構造形式の選定	配慮書段階における審査会等での指摘を踏まえて案④を設定し、4案で検討した旨を記載
施工計画	新たに「施工計画」の項を起こし、現時点での工事概要等を記載

19

地域の概況及び地域特性

変更点	概要
全般	既存資料の時点更新

配慮指針に基づいて行った配慮の内容

変更点	概要
全般	配慮市長意見書を踏まえ、配慮の内容を更新

20

3 配慮書に対する環境情報提供書の概要及び都市計画決定権者の見解

21

環境情報提供書の概要及び都市計画決定権者の見解 方法書p.4-8

■ 配慮書に対する環境情報提供書の概要 及び都市計画決定権者の見解（１）

環境情報提供書の概要		都市計画決定権者の見解	
(1)	<u>近隣の林等を猛禽類が利用しており、大量の車の往来によって、悪影響を及ぼす可能性がある。</u>	<u>現地調査を実施し、その中で猛禽類等の確認も行います。今後、現地調査にて猛禽類等の生息状況等を確認した場合、事業影響の有無を確認した上で、必要に応じて環境保全対策を検討します。</u>	
(2)	<u>広域防災拠点としての機能を向上させたいなら、広大な敷地を生かし、厚木基地とも協力体制をとって、ヘリコプターでの空輸をした方が能率的だと思う。</u>	<u>ヘリコプター輸送の有効性もありますが、災害時の物資輸送の量が限られる等、課題があると考えられます。また、全国からの広域支援部隊の活動を支え、かつ、市内に救援物資を早期に届けるための拠点として、新たなインターチェンジを選定しました。</u>	

22

■ 配慮書に対する環境情報提供書の概要
及び都市計画決定権者の見解（２）

	環境情報提供書の概要	都市計画決定権者の見解
(3)	広大な草原を傷つけないよう敷地内道路を地下にしてほしい。 野生動物・自然環境にも悪影響を及ぼすようなことはやめ、ヘリでの空輸や道路の地下化をしてほしい。	対象事業実施区域には横浜市内でも貴重な農地環境が残されていることから、その保全に十分配慮した計画とします。 農業振興地区の改変区域を小さくするため、構造としてはトンネル構造を取り入れた案④を選定しました。

4 配慮市長意見の内容及び 都市計画決定権者の見解

■ 全般的事項（１）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(1)	<u>配慮事項に対する配慮の内容を適切に事業計画に反映させるとともに、検討するとしている事項については、各々の検討状況を方法書に記載すること。</u>	配慮事項に対する配慮の内容について、現時点での検討状況を方法書に記載しました。配慮の内容については、 <u>適切に事業計画に反映して</u> いきます。
(2)	今後の事業の進展においては、本市の最新の計画等と整合を図るなど、 <u>適時、適切な配慮内容となるよう努めること。</u>	事業の進捗に合わせ、横浜市の最新の計画等と整合を図るとともに、 <u>適時、適切な配慮内容となるよう努めます。</u>

■ 全般的事項（２）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(3)	配慮事項に対する配慮の内容については、相互に密接に関連する複数の事項があることから、 <u>全体的な視点で引き続き検討すること。</u>	グリーンインフラの導入やヒートアイランド現象の緩和として、 <u>可能な限り農業振興地区の改変範囲を小さくすることや法面の緑化の検討等、当該事業との連携が必要となる事項について検討を行っています。</u>
(4)	旧上瀬谷通信施設地区内の公園・防災地区 ^注 で整備が予定されている広域防災拠点の機能を最大限に発揮することを本事業の目的の一つとしていることから、 <u>広域防災拠点の検討状況について方法書に記載すること。</u>	<u>現時点での広域防災拠点についての検討状況を方法書に記載しました。</u>

注：現在は「防災・公園地区」という名称ですが、配慮市長意見当時の名称で記載

■ 全般的事項（3）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(5)	東名高速道路との接続位置を含めたルートやランプの位置等が示されていないことから、 <u>本事業の整備計画の詳細を方法書で記載すること。</u>	東名高速道路との接続位置を含めたルートやランプの位置等は、 <u>対象事業実施区域として範囲で示しました。</u>
(6)	構造形式の選定においては、 <u>廃棄物・建設発生土、生物、騒音、振動、交通流等の観点も踏まえて検討し、3案から1案へ絞り込んだ経過と結果を方法書に記載すること。</u>	構造形式の選定は、配慮書段階の3案から、審査会でのご指摘等を踏まえ、 <u>施工範囲の縮小や環境負荷低減を考慮した案④を検討しました。また、選定の考え方を方法書に記載しました。</u>

■ 全般的事項（4）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(7)	関連する「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業」や「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業」等の旧上瀬谷通信施設地区における最新の事業計画を踏まえるとともに、 <u>東名高速道路や周辺道路への影響も考慮して、環境影響評価項目の選定並びに調査、予測及び評価の手法について検討すること。</u>	旧上瀬谷通信施設地区における最新の事業計画を踏まえるとともに、「旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業」及び「（仮称）旧上瀬谷通信施設公園整備事業」と連携し、 <u>東名高速道路や周辺道路への影響も考慮して、環境影響評価項目の選定並びに調査、予測及び評価の手法について検討しました。</u>

■ 配慮指針に掲げられている配慮事項（１）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(1)	農業振興地区は、動物にとって重要なエリアとなるが、<u>3案のうち、市道目黒第25号線交差部の区間で掘割構造、高架構造を含む案については、農業振興地区での動物の移動経路を分断する可能性があることから、可能な限り動物への影響を低減するよう配慮すること。</u>	農業振興地区は、動物にとって重要なエリアとなるため、審査会での<u>ご指摘等を踏まえ、施工範囲の縮小や環境負荷低減を考慮し、案④を検討し、可能な限り動物への影響を低減するようにしました。</u>

■ 配慮指針に掲げられている配慮事項（２）

	意見の内容	都市計画決定権者の見解
(2)	旧上瀬谷通信施設地区の一部で土壌の汚染が確認され、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業において対応した後に本事業を実施することとしていることから、<u>その対応状況及び計画区域との位置関係の最新情報を方法書に記載すること。</u>	<u>旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業における対応状況について方法書に記載しました。</u>

■ 配慮指針に掲げられている配慮事項（３）

意見の内容	都市計画決定権者の見解
(3) 3案のうち、 <u>東名高速道路接続部の区間で高架構造としている案については、隣接する10階建て以上の集合住宅への騒音の影響が大きくなることが予想されるため、保全対策を検討すること。</u>	隣接する10階建て以上の集合住宅への騒音の影響が大きくなることが予想されるため、 <u>当該集合住宅の騒音調査及び予測、評価を行った上で、必要に応じて保全対策を検討致します。</u>

5 環境影響要因の抽出及び 環境影響評価項目の選定

環境影響要因の抽出

方法書p.5-1

区分	環境影響要因	抽出の理由
工事中	建設機械の稼働	・道路の建設に伴い、建設機械が対象事業実施区域で稼働します。
	工事用車両の走行	・資機材の運搬や廃棄物等の搬出を行う車両が、周辺道路を運行します。
	切土工等、トンネル工事又は既存の工作物の除去	・工事の実施に伴い、地表を改変します。 ・トンネル工事に伴い、地下を改変します。 ・工事の実施に伴い、既存の工作物を解体・撤去します。
存在・供用時	道路（平面構造又は掘割構造）の存在	・道路（平面構造又は掘割構造）が、地上部に出現します。
	道路（高架構造）の存在	・道路（高架構造）が、地上部に出現します。
	道路（トンネル構造）の存在	・道路（トンネル構造）が、地下部に出現します。
	自動車の走行	・施設の供用に伴い、新たに自動車が地上もしくは地下を走行します。

注：評価を行う現況は、土地区画整理事業の着手後、工事中の時点とし、本事業に関する方法市長意見書を受理した時点の状況とします。

33

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

■ 工事中（１）		環境影響要因		
環境影響評価項目		建設機械 の稼働	工事用車 両の走行	切土工等、 トンネル工 事又は既存 の工作物の 除去
温室効果ガス		○	○	
生物・生態系	生態系／動物／植物			○
緑地				○
水循環	地下水位			○
廃棄物・建設発生土	産業廃棄物／建設発生土			○
大気質	大気汚染	○	○	
騒音		○	○	
振動		○	○	
地盤	地盤沈下			○

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

34

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

■ 工事中（２）		環境影響要因		
環境影響評価項目	細目	建設機械 の稼働	工事用車 両の走行	切土工等、 トンネル工 事又は既存 の工作物の 除去
安全	地下埋設物 ^注			○
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全		○	
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場		○	○
文化財等				○

注：本事業の事業特性を考慮し、追加した細目

※工事中を対象として選定した項目のみを掲載

35

環境影響要因と環境影響評価項目の関連表

方法書p.5-2

■ 存在・供用時（１）		環境影響要因			
環境影響評価項目	細目	道路の存在			自動 車の 走行
		平面 又は 掘割 構造	高架 構造	トン ネル 構造	
温室効果ガス		○	○	○	
生物・生態系	生態系／動物／植物	○	○		
緑地		○	○		
水循環	地下水位	○		○	
大気質	大気汚染				○
騒音					○
振動					○
地盤	地盤沈下	○		○	

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

36

存在・供用時（２）		環境影響要因			
環境影響評価項目		道路の存在			自動車の走行
		平面又は掘割構造	高架構造	トンネル構造	
細目					
低周波音					○
日影	日照障害		○		
地域交通	交通混雑／歩行者等の安全				○
景観		○	○		
触れ合い活動の場	触れ合い活動の場	○			○

※存在・供用時を対象として選定した項目のみを掲載

■ 工事中及び供用時ともに選定しなかった環境影響評価項目

環境影響評価項目	
	細目
水質・底質	公共用水域の水質
	地下水の水質
	公共用水域の底質
土壌	土壌汚染
悪臭	悪臭
電波障害	テレビ電波障害
風環境	局地的な風向・風速

6 調査、予測及び評価の手法

39

温室効果ガス

方法書p.6-1～6-3

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
温室効果ガスに係る原単位の把握	資料	「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等により、予測式及び原単位を整理
地域内のエネルギー資源の状況	資料	既存の統計資料や、横浜市のエネルギー関連施策等の収集整理により調査
排出削減対策	資料	同種又は類似の事業を対象に、温室効果ガスの排出等を削減するための対策の内容及びその効果等を整理

注：主な調査項目を記載

40

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	施工計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、 <u>エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴うエネルギーの使用量及び温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期	事業計画の内容を勘案し、「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」等に基づき、 <u>エネルギーの使用量、温室効果ガスの排出量、それらの削減の程度を定量的に算定</u>

41

生物多様性（生態系）

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
生態系の状況 ・生態系の機能及び構造 ・食物連鎖の状況 ・注目すべき生態系及びその理由	資料 現地	動物の状況及び植物の状況の調査結果及び現地踏査により、 <u>生態系の状況を把握</u>

注：主な調査項目を記載

42

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した生態系の状況と <u>施工計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う生態系の状況の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた動物及び植物の生育・生息環境が安定した時点	調査で把握した生態系の状況と <u>事業計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

43

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
動物の状況 ・動物相 ・注目すべき動物種及び動物群集の状況 ・生息環境の特性 ・動物の生息環境からみた地域環境特性	資料	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査
	現地	陸生動物 動物相調査 a.哺乳類 ・任意観察法、フィールドサイン法、トラップ法、無人撮影法及び夜間調査（コウモリ類） ・4季（春季、夏季、秋季、冬季） ※夜間は2季（春季、夏季） b.鳥類 ・任意観察法、ラインセンサス法、定点観察法及び夜間調査（フクロウ類、夜行性鳥類） ・5季（春季、初夏、夏季、秋季、冬季） ※夜間調査は繁殖期（初夏、冬季） ※定点観測法（猛禽類の繁殖の兆候が確認された場合）は2営巣期 c.両生類及び爬虫類 ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（早春季、春季、夏季、秋季）

注：主な調査項目を記載

44

調査手法

調査項目注	調査方法	
動物の状況 ・動物相 ・注目すべき動物種及び動物群集の状況 ・生息環境の特性 ・動物の生息環境からみた地域環境特性	現地	d.昆虫類 ・任意観察法、任意採取法、ライトトラップ法及びバイトトラップ法 ・3季（春季、夏季、秋季） e.陸産貝類 ・任意観察法及び任意採取法 ・2季（初夏季、冬季） 水生生物 a.魚類 ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（春季、夏季、秋季、冬季） b.底生動物 ・任意観察法及び任意採取法 ・4季（春季、夏季、秋季、冬季）

注：主な調査項目を記載

45

調査手法

調査項目注	調査方法	
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・1年間 河川の流量の調査 ・平常時：2回（渇水期、豊水期）

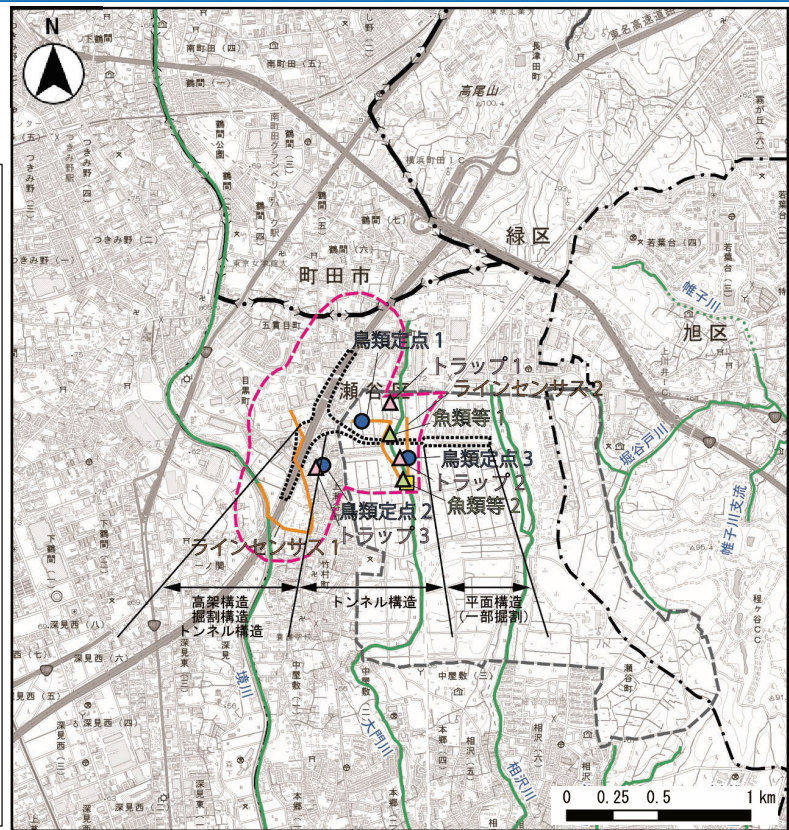
注：主な調査項目を記載

46

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 土地区画整理事業実施区域
- 調査地域（動物・植物）
（対象事業実施区域から約250mまでの範囲）
- 河川
- 調査地点（河川の流量・水質）
- ラインセンサス（鳥類）
- 調査地点（鳥類（定点観察））
- ▲ 調査地点（トラップ（哺乳類、昆虫類））
- ▲ 調査地点（魚類、定点動物、付着藻類）



47

生物・生態系（動物）

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う 陸生動物の動物相、 水生生物相の変化の 内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と施工計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う陸生動物の動物相、水生生物相の変化の内容及びその程度	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた動物の生息環境が安定した時点	調査で把握した陸生動物の動物相、水生生物相の状況及び生息環境と事業計画を重ね合わせ、影響の程度を定性的に予測

48

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
植物の状況 ・ 植物相 ・ 植生 ・ 注目すべき植物種、その分布及び理由 ・ 大径木の状況	資料	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査
	現地	<u>陸生植物</u> a.植物相調査 ・ 任意観察法及び任意採集法（維管束植物、蘚苔類） ・ 4季（早春季、春季、夏季、秋季） b.植生調査 ・ コドラート法 ・ 1季（夏季） c.大径木調査 ・ 現地確認 ・ 通年 <u>水生植物</u> a.付着藻類調査 ・ 任意観察法及び定量採取法 ・ 4季（春季、夏季、秋季、冬季）

注：主な調査項目を記載

49

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
水質の状況	現地	大門川のSS（浮遊性物質）、pH（水素イオン濃度）を調査 ・ 平常時：2回（渇水期、豊水期）
水循環の状況	資料	河川の形態、河川の流量は、既存資料の収集・整理及び現地踏査により調査
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・ 1年間 河川の流量の調査 ・ 平常時：2回（渇水期、豊水期）

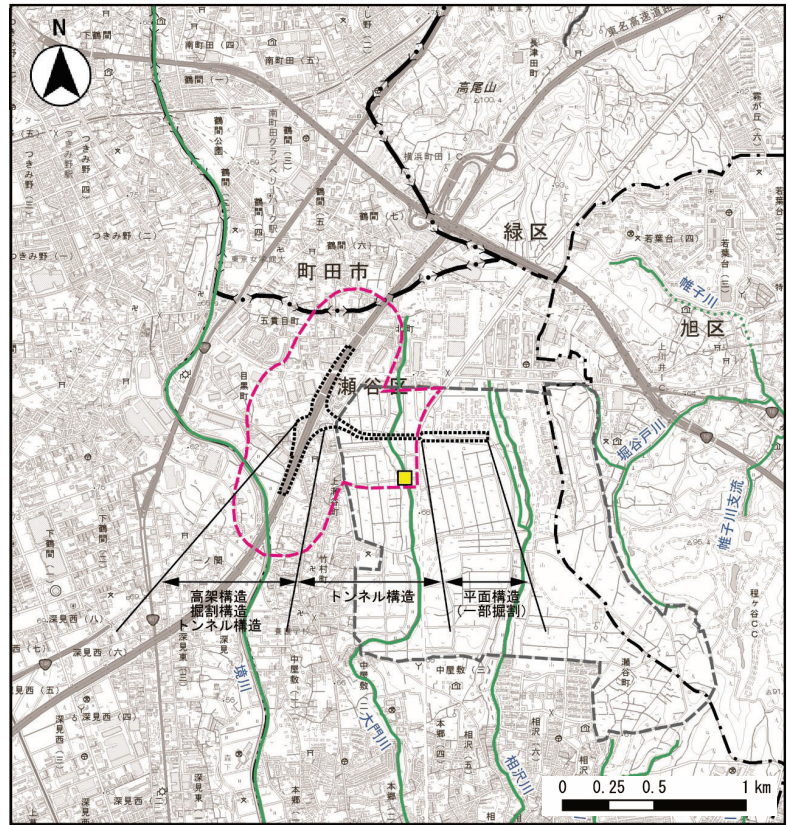
注：主な調査項目を記載

50

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 土地区画整理事業実施区域
- 調査地域（動物・植物）
（対象事業実施区域から
約250mまでの範囲）
- 河川
- 調査地点（河川の流量・水質）



51

生物・生態系（植物）

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う <u>陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と <u>施工計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う <u>陸生植物の植物相、水生植物の植物相の変化の内容及びその程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた植物の生育環境が安定した時点	調査で把握した陸生植物の植物相、水生植物の植物相及び植生の状況と <u>事業計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定性的に予測</u>

52

調査手法

調査項目注	調査方法	
緑地の状況 ・緑地の位置付け及び立地 ・緑地の面積及び形状等 ・特に重要な緑地の特性及び状況 ・緑地の機能の状況	資料 現地	植生図等の既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査

注：主な調査項目を記載

調査地域

凡例

- 対象事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 土地区画整理事業実施区域
- 調査地域（動物・植物）
（対象事業実施区域から約100mまでの範囲）



■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う緑地の <u>変化及びその機能の程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した緑地の状況と <u>施工計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定量的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う緑地の <u>変化及びその機能の程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 道路の完成後、一定期間をおいた時点	調査で把握した緑地の状況と <u>事業計画</u> を重ね合わせ、 <u>影響の程度を定量的に予測</u>

55

水循環（地下水位）

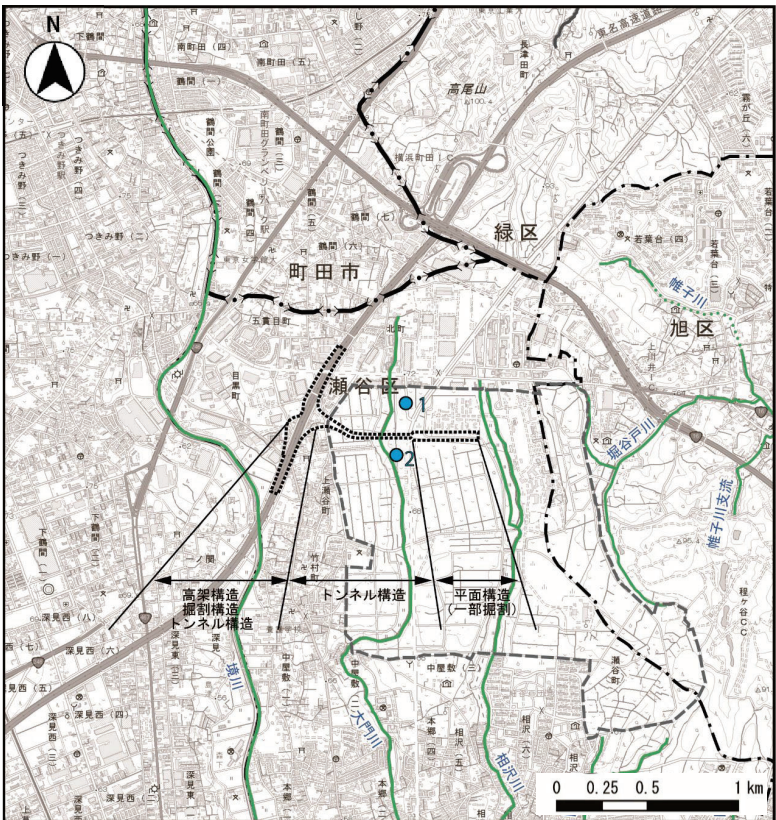
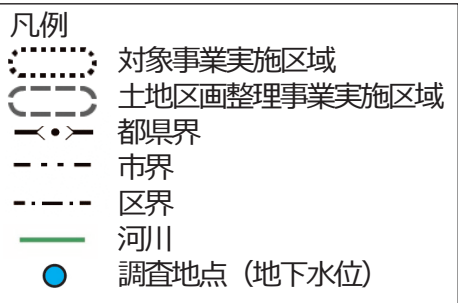
■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地下水の状況 ・地下水の水位及び流動 ・帯水層の状況	資料	既存資料の収集・整理
	現地	地下水位について、観測井を設置し調査 ・ 1年間

注：主な調査項目を記載

56

調査地点



予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴い変化する地下水位	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺 【時期】 工事による影響が最大となる時期	施工計画の内容を勘案し、数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等）を用いて、地下水位の変化を定量的に予測

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴い変化する地下水位	【地域・地点】 対象事業実施区域及びその周辺 【時期】 地下構造物の完成後、供用を開始し、事業活動が定常の状態になる時期	事業計画の内容を勘案し、数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等）を用いて、地下水位の変化を定量的に予測

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
廃棄物及び建設発生土の <u>処理・処分の状況</u> ・種類ごとの発生量 ・工事間利用の状況 ・廃棄物の処理状況	資料	横浜市における廃棄物及び建設発生土の処理状況等を、 <u>既存資料の収集・整理</u> により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施により発生する <u>産業廃棄物</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 【時期】 工事期間全体	<u>施工計画を基に発生量を推定</u> すると共に、本事業で実行可能な再利用等の方法や、処理方法等を整理し、種類ごとに発生量、資源化量及び最終処分量を定量的に予測
工事の実施により発生する <u>建設発生土</u>		

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
大気質の状況 ・二酸化窒素 ・浮遊粒子状物質	資料	対象事業実施区域近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理
	現地	「二酸化窒素に係る環境基準について」等に定める方法により測定 ・7日間×24時間×4季
気象の状況 ・風向、風速 ・日射量 ・放射収支量	資料	対象事業実施区域近傍の常時監視測定局のデータを収集・整理
	現地	風向・風速の状況を「地上気象観測指針」に定める方法により測定 気温、湿度の状況を温度計及び湿度計を設置して調査 ・7日間×24時間×4季
大気汚染物質の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

61

調査地点
(工事中)

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- ← 工事用車両の走行ルート
- ▲ 調査地点（簡易法（沿道大気、自動車断面交通量））

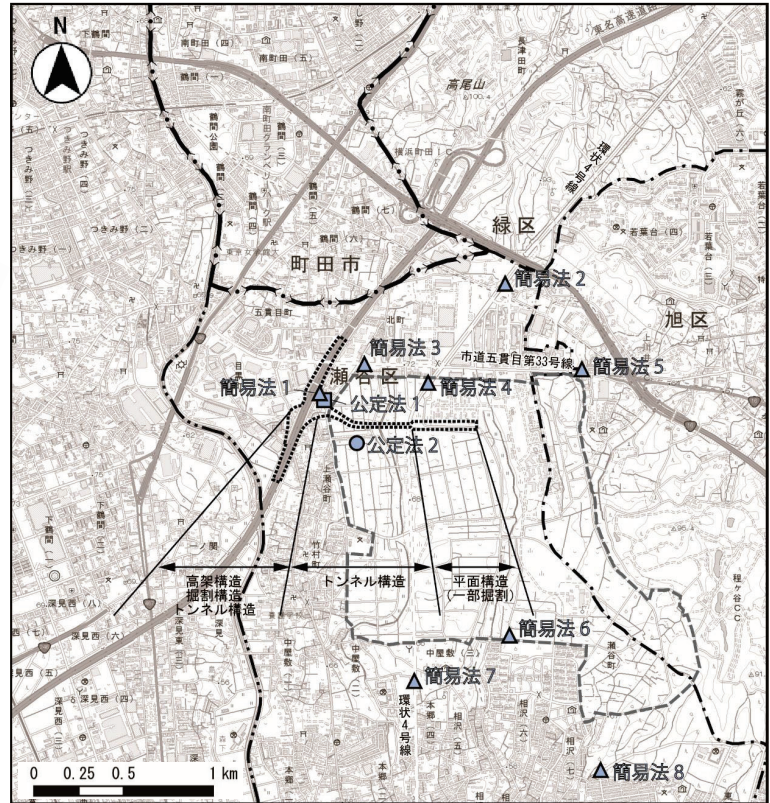


62

調査地点 (存在・供用時)

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施区域
- 都県界
- 市界
- 区界
- 調査地点（公定法（一般大気）
・地上気象）
- 調査地点（公定法（沿道大気）
・地上気象）
- ▲ 調査地点（簡易法（沿道大気、
自動車断面交通量））



63

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う大気質濃度	【地域・地点】 最大着地濃度の出現する地点を含む範囲 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測
工事用車両の走行に伴う大気質濃度	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（簡易法1～4地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測

64

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う大気質濃度	【地域・地点】 供用道路の走行ルート沿道として想定される道路沿道の9地点（簡易法2～8地点、ランプ部周辺1地点、区画3号線接続部（トンネル構造坑口部）周辺1地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている大気拡散式により、年平均値を定量的に予測

65

騒音

■ 調査手法

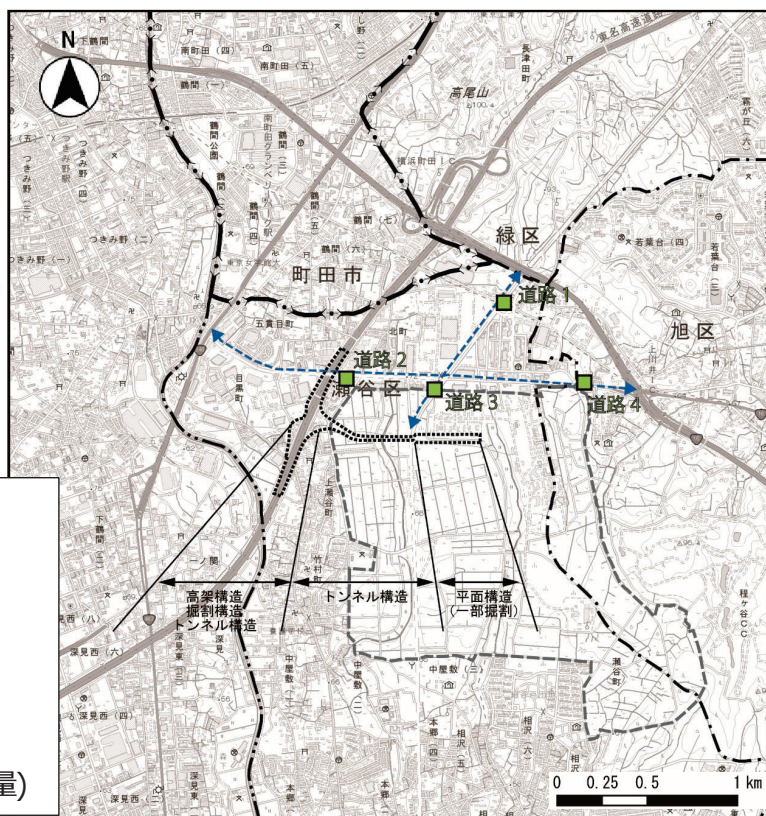
調査項目 ^注	調査方法	
騒音の状況 ・一般環境騒音 ・道路交通騒音	現地	「騒音に係る環境基準について」に定める方法に準拠し、測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
騒音の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

66

凡例

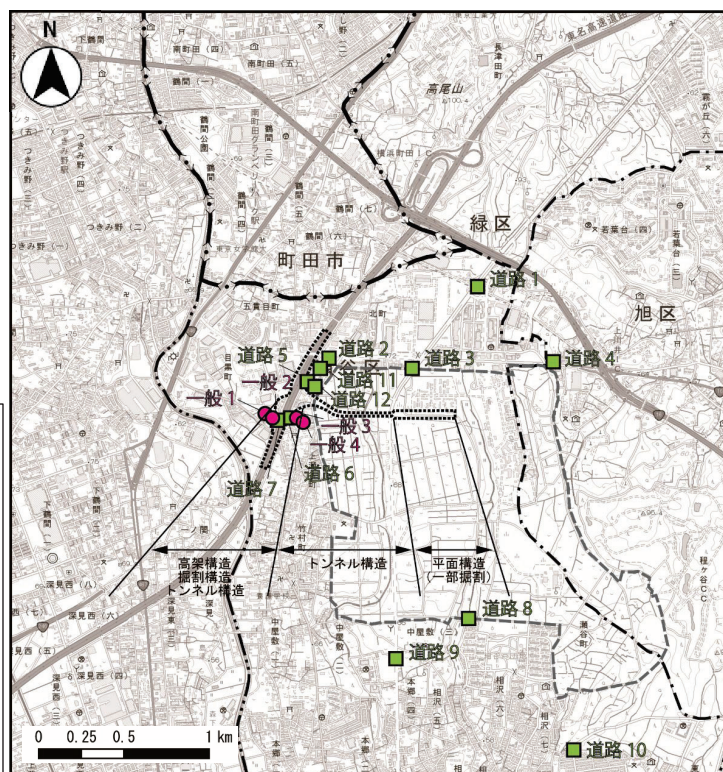
	対象事業実施区域
	土地区画整理事業実施区域
	都県界
	市界
	区界
	工事用車両の走行ルート
	調査地点 (道路交通騒音、自動車断面交通量)



67

凡例

	対象事業実施区域
	土地区画整理事業実施区域
	都県界
	市界
	区界
	調査地点 (一般環境騒音)
	調査地点 (道路交通騒音、自動車断面交通量)



68

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う騒音	【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲 予測高さは地上1.2m 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯	<u>予測計算モデル(ASJ CN-Model)を用い、定量的に予測</u>
工事用車両の走行に伴う道路交通騒音	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点 予測高さは地上1.2m（道路1～4地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯	<u>「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)」を用い、定量的に予測</u>

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通騒音	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される道路沿道の12地点 予測高さは地上1.2m ランプ部周辺のマンションの主要高さ（道路1～12地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	<u>「道路交通騒音の予測計算モデル(ASJ RTN-Model)」を用い、予測</u>

調査手法

調査項目注	調査方法	
振動の状況 ・一般環境振動 ・道路交通振動	現地	「振動レベル測定方法」(JIS Z 8735)に定める方法に準拠し、測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回
地盤の状況 ・地盤卓越振動数	現地	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に基づき、測定 ・大型車の単独走行10台
振動の主要な発生源の状況 ・主要発生源の状況 ・自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

調査地点
(工事中)

凡例

対象事業実施区域

土地区画整理事業実施区域

都県界

市界

区界

工事用車両の走行ルート

調査地点
(道路交通振動、自動車断面交通量)



調査地点
(存在・供用時)

凡例

対象事業実施区域

土地区画整理事業実施区域

都県界

市界

区界

調査地点
(一般環境騒音)

調査地点
(道路交通騒音、自動車断面交通量)

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
建設機械の稼働に伴う振動	【地域・地点】 ランプ部周辺の対象事業実施区域から約100mの範囲 【時期】 建設機械の稼働による影響が最大となる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている振動の伝搬理論に基づく予測式を用い、定量的に予測
工事用車両の走行に伴う道路交通振動	【地域・地点】 工事用車両の走行ルート沿道として想定される道路沿道4地点（道路1～4地点） 【時期】 工事用車両の走行による影響が最大となる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測式を用い、定量的に予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通振動	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される道路沿道の10地点（道路1～10地点） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測式を用い、定量的に予測

75

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地質の状況	資料	ボーリング資料を含めた既存資料の収集・整理により把握
	現地	ボーリングによる地質調査を実施（既往調査結果を利用）

注：主な調査項目を記載

76

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う地盤の変化	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 工事による影響が最大となる時期	施工計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在に伴う地盤の変化	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 地下構造物の完成後	事業計画の内容を勘案し、地盤の状況及び地下水の状況について定量的な予想結果（数値解析モデル（断面二次元浸透流解析等））と重ね合わせ、影響の程度を予測

77

低周波音

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
低周波音の状況	現地	「低周波音の測定方法に関するマニュアル」に定める方法に準拠し、測定 ・ 平日（24時間）×1回 ・ 休日（24時間）×1回
低周波音の主要な発生源の状況 ・ 主要発生源の状況 ・ 自動車交通量等の状況	資料 現地	既存資料の収集・整理及び現地踏査
	現地	自動車断面交通量を測定 ・ 平日（24時間）×1回 ・ 休日（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

78

調査地点

凡例

対象事業実施区域

土地区画整理事業実施区域

都県界

市界

区界

調査地点
(低周波音、自動車断面交通量)



予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う道路交通低周波音	【地域・地点】 自動車の走行ルート沿道として想定される当該地域の低周波音を代表すると予想される1地点（地点1） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期、時間帯	「道路環境影響評価の技術手法（平成24年度版）」に示されている予測手法に準じ、定量的に予測

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
日影の状況 ・既存の工作物のうち、 <u>対象事業による建設予定の工作物との複合影響が生じると想定される工作物からの日影の状況</u>	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び現地踏査により調査
日影に配慮すべき農地の状況	資料 現地	既存資料による情報の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により調査
既存の工作物の位置及び規模	資料 現地	既存の工作物の位置及び規模を既存資料の収集・整理及び必要に応じ現地踏査により把握

注：主な調査項目を記載

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
冬至日の日影の範囲、冬至日に日影となる時刻、日影に配慮すべき農地が日影となる時刻、時間数等の変化の程度	【地域・地点】 対象となる日影の情報を適切に把握し得る地域、地点 【時期】 対象事業に係る工作物の工事の完了後	対象事業の工作物の工事完了後の時刻別日影図、等時間日影図を作成し、 <u>定量的に予測</u>

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地下埋設物の状況 ・対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況	資料	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況を、事業計画の整理及び既存資料の収集・整理により把握

注：主な調査項目を記載

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う地下埋設物への影響	【地域・地点】 対象事業実施区域周辺 【時期】 工事期間全体	対象事業実施区域と交差する地下埋設物の状況と施工計画を重ね合わせ、地下埋設物に係る安全を確保するための措置を整理することで、定性的に予測

83

地域交通(交通混雑、歩行者等の安全)

方法書p.6-42～6-46

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
地域交通の状況 ・日常生活圏等の状況 ・道路の状況 ・歩行者及び自転車の状況	資料	既存資料の収集・整理及び現地踏査 計画交通量は、将来推計資料により把握
	現地	交通安全対策の状況（ガードレールの設置位置や歩行空間の幅員等）を1回、現地踏査により把握
	現地	主要交差点部における時間別・車種別・方向別自動車交通量、渋滞の状況及び信号現示を調査 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回 ・混雑時（24時間）×1回
	現地	歩道部等の時間別・方向別歩行者・自転車交通量を調査 ・平日（24時間）×1回 ・休日（24時間）×1回 ・混雑時（24時間）×1回

注：主な調査項目を記載

84

調査地点
(工事中)

凡例

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  都県界
-  市界
-  区界
-  工事用車両の走行ルート
-  調査地点 (交差点：自動車交通量、信号現示、渋滞の状況、道路現況、歩行者・自転車交通量)



85

調査地点
(存在・供用時)

凡例

-  対象事業実施区域
-  土地区画整理事業実施区域
-  都県界
-  市界
-  区界
-  調査地点 (交差点：自動車交通量、信号現示、渋滞の状況、道路現況、歩行者・自転車交通量)
-  調査地点 (断面：歩行者・自転車交通量)



86

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事用車両の走行に伴う <u>交差点における需要率及び交通容量比（自動車）</u>	【地域・地点】 工事用車両ルートとして想定される主要交差点の6地点（交差点1～6地点） 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	<u>交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を定量的に予測</u>
工事中の <u>歩行者等の安全に及ぼす影響の程度</u>	【地域・地点】 工事用車両の走行が予想される主要交差点・ルート 【時期】 工事用車両の走行台数が最大となる時期	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、 <u>定性的に予測</u>

87

■ 予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
自動車の走行に伴う <u>交差点における需要率及び交通容量比</u>	【地域・地点】 自動車の走行ルートとして想定される主要交差点の6地点（地点1～6）、及び1断面（地点7） 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	<u>交差点需要率の算出等により、交通混雑の程度を定量的に予測</u>
自動車の走行に伴う <u>歩行者等の安全に及ぼす影響の程度</u>	【地域・地点】 自動車の走行が予想される主要交差点・ルート 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	現状の交通安全施設及び歩行者・自転車の状況の整理と、本事業で実施する安全対策等を整理し、 <u>定性的に予測</u>

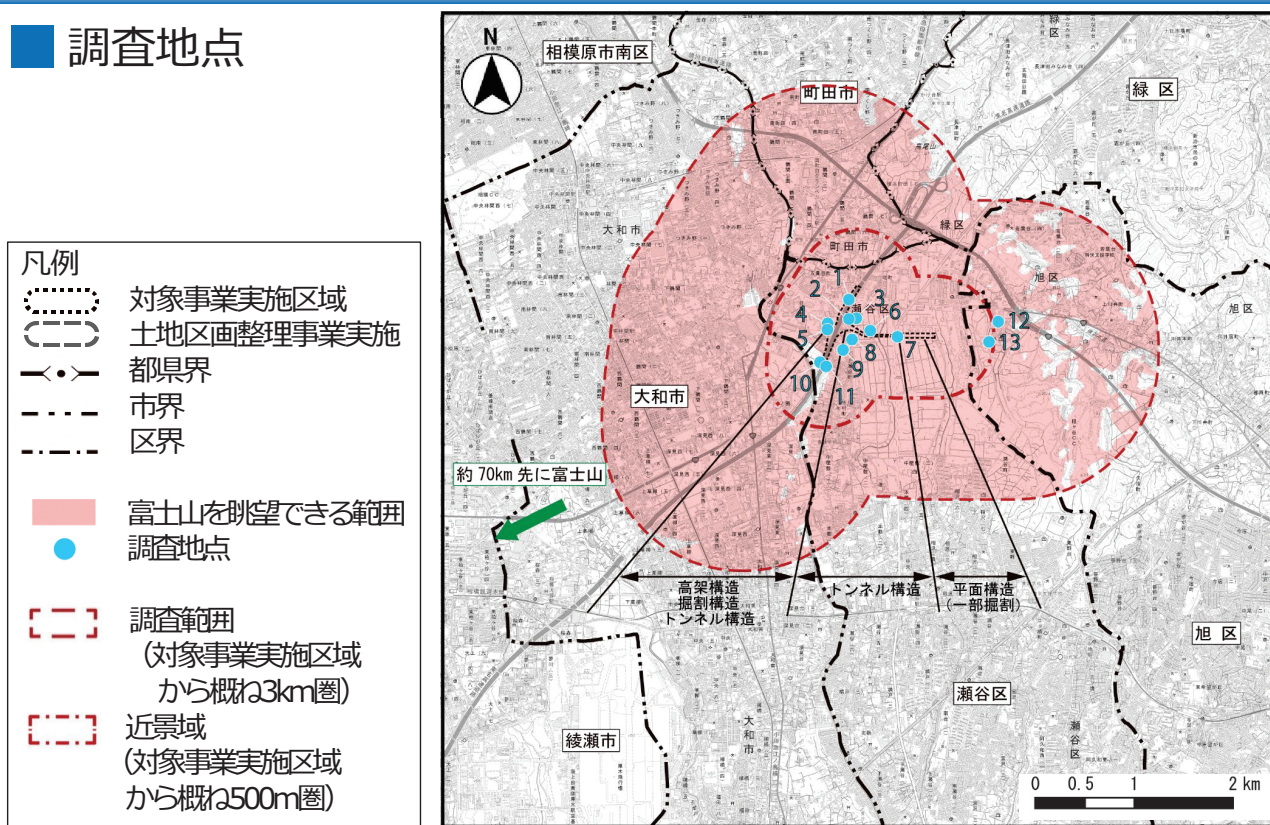
88

調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
<u>地域景観の特性</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
<u>主要な景観資源の状況</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>
<u>近景域の状態</u>	現地	主要な眺望地点からの近景域の景観を、現地調査（写真撮影）により把握 ・各主要な眺望点の特性を踏まえて景観の状況が把握できる適切な時期（夏季、冬季）

注：主な調査項目を記載

調査地点



■ 予測手法（供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在により 変化する <u>景観の状況</u>	【地域・地点】 現地調査地点 【時期】 道路完成時点	<u>フォトモンタージュ作成</u> により、 <u>景観の変化の程度を定性的に予測</u>

91

触れ合い活動の場

■ 調査手法

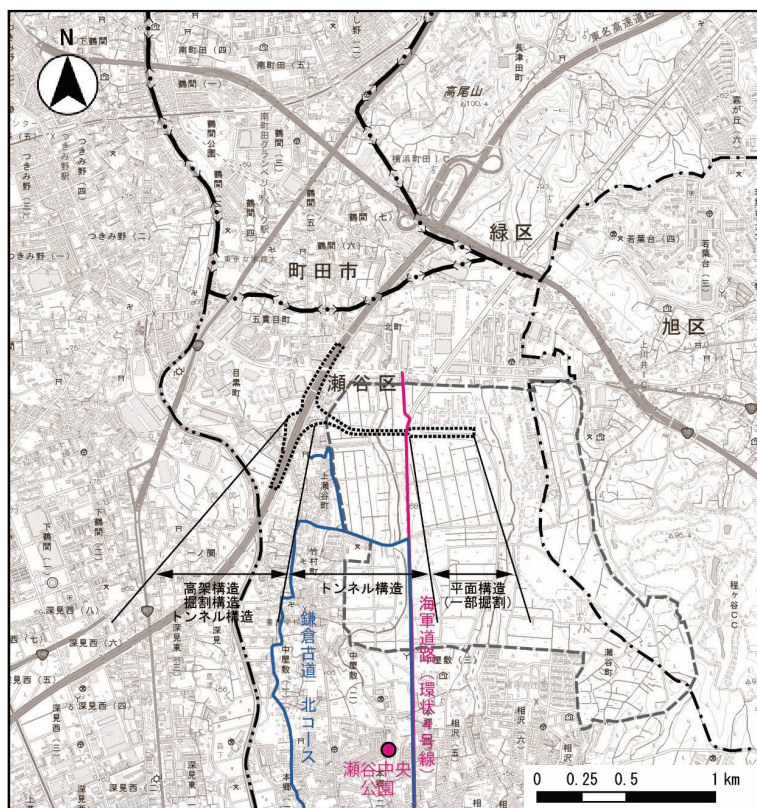
調査項目 ^注	調査方法	
触れ合い活動の場の状況 ・ <u>名称、位置、規模、区域及び分布状況等</u> ・ <u>活動特性</u> ・ <u>触れ合い活動の場までの利用経路</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u> ・ 桜の見どころスポット： 桜の花見時期（3月下旬～4月上旬）、 ハイキングコースや散歩道の秋の イベント開催時（10月～11月）

注：主な調査項目を記載

92

調査地域

- 凡例
- 対象事業実施区域
 - 土地区画整理事業実施区域
 - 都県界
 - 市界
 - 区界
 - 桜の見どころスポット
(並木型)
 - 桜の見どころスポット
(拠点型)
 - 瀬谷ふるさと歴史さんぽ道



93

触れ合い活動の場

予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
工事の実施に伴う <u>主要な触れ合い活動の場の変化の程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 工事期間全体	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と <u>施工計画</u> を重ね合わせ、影響の程度を <u>定性的に予測</u>

予測手法（存在・供用時）

予測項目	予測地域・地点・時期	予測方法
道路の存在、自動車の走行に伴う <u>主要な触れ合い活動の場の変化の程度</u>	【地域・地点】 現地調査の範囲 【時期】 供用開始し、事業活動が定常の状態になる時期	調査で把握した主要な触れ合い活動の場の状況と <u>事業計画</u> を重ね合わせ、影響の程度を <u>定性的に予測</u>

94

■ 調査手法

調査項目 ^注	調査方法	
文化財等の状況 ・ <u>位置又は範囲</u> ・ <u>指定区分及びその概要</u>	資料 現地	<u>既存資料の収集・整理及び現地踏査</u>

注：主な調査項目を記載

■ 予測手法（工事中）

予測項目	予測地域・地点・ 時期	予測方法
工事の実施に伴う周知 <u>の埋蔵文化財包蔵地の</u> <u>改変の程度</u>	【地域・地点】 対象事業実施区域 に隣接する範囲 【時期】 工事期間全体	周知の埋蔵文化財包蔵地の位置と施 <u>工計画を重ね合わせ、改変の程度を</u> <u>定性的に予測</u>

95

評価の手法

方法書p.6-1～6-52

環境の保全等に関して、

- ・ 横浜市が定めた計画及び指針等の中で設定している目標
 - ・ 法令等で定められている基準
 - ・ 環境への影響を最小限にとどめる水準
- 等



「環境保全目標」を設定

「環境保全目標」と予測結果との対比により、評価

※結果等については、今後実施する準備書にて、お示しいたします。

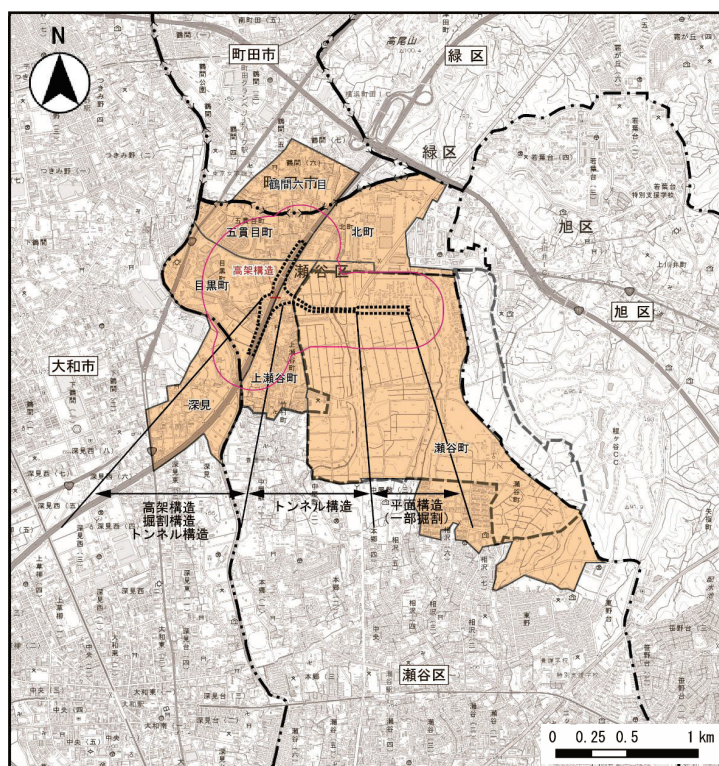
96

7 方法書対象地域

97

方法書対象地域

方法書p.7-1～7-2



区名	町丁名	周知地域
瀬谷区	瀬谷町	全域
	上瀬谷町	
	北町	
	五貫目町	
	目黒町	
大和市	深見	一部地域
町田市	鶴間六丁目	全域

凡例

- 対象事業実施区域
- 土地区画整理事業実施
- 都県界
- 市界
- 区界
- 本事業影響範囲
- 方法書対象地域

98

ご清聴ありがとうございました